

第12回 ウォーターワーク・コンペティション at Lake NOJIRI 水難救助犬・競技会



第4回水難救助犬認定審査会



とき

2009年10月11日(日)

ところ

長野県信濃町 野尻湖

主催

J.W.W.A.(日本ウォーターワーク協会)

<http://jphal.net/jwwa/>

お問い合わせ・申込先/ 妙高動物病院 TEL0255-86-6658

hiroohh@vet.ne.jp

詳細は <http://jphal.net/nsdrc/>



2009 ウォーター・ワーク・コンペティション at Lake NOJIRI

第12回 水難救助犬 競技会 大会報告

第4回 水難救助犬認定（内水面・湖沼）審査会 結果報告

ウォーターワークコンペティション運営本部長 妙高動物病院 星 博夫

今年は妙高山の初冠雪が10月9日に観測され、大会当日の11日にも2回目の冠雪があり山頂が白くなりました。

爽やかに晴れ上がった秋晴れの10月11日（日）に「第12回水難救助犬競技会」

(The 12th Annual Water Work Competition at LAKE NOJIRI) と第4回水難救助犬認定（内水面・湖沼）審査会

(4th Annual Water Rescue Dog Certification Examination) が、主催：日本ウォーターワーク協会 (J.W.W.A)

(会長 千葉 路子)、協賛：DOG・DEPT、A・Dサマーズ、妙高動物病院、フレンドリー

協力：JWWA 琵琶湖（濱田由美子）・西湖（大石みち子）・妙高（星博夫）・大阪（前村真由美）・東京（吉田しづか）の各支部によって、長野県信濃町菅川「野尻湖」を会場として開催されました。ちなみに気温 17℃、水温は 17℃でした。

千葉会長より開会の挨拶、前回エキスパートクラス優勝の荒井・パールチームから優勝カップの返還、ミーティング、体操は省略をして、各自、自己責任で競技に臨むよう、星競技リーダーの発声で、午前9時30分にオープンクラスから競技開始です。

当日の大会スケジュールは

時間	内容	場所	備考
8:30	各自、野尻湖へ集合	野尻湖	安全運転
9:30	競技会（オープンクラス） （エキスパートクラス）	野尻湖	審査員：JWWA ジャッジ
12:00	昼食	レストラン「フレンドリー」	
13:00	競技会（エキスパートクラス） 審査会（3・2・1級） 公開競技（W.E.Sクラス）	野尻湖 *参照	審査員：JWWA ジャッジ
15:00	講評、表彰式、記念写真、 解散		気をつけてお帰り下さい

*公開競技種目（Who is the earliest in swimming?）（W・E・Sクラス）

溺者役は誰でもOK（飼い主・他人・知人・友人・家族）。

沖合15mにいる溺者役に何秒で泳ぎ着けるかを競う。

小型犬（S）・中型犬（M）・大型犬（L）・超大型犬（LL）の各クラスで行う。

モチベーターの使用は禁止する。

（ただし、開始の合図があってから30秒以内にスタートしない場合はOK）

（当日、時間がなかったので実施できませんでした。）

オープンクラスの競技は以下の順番で開始されました。

種目1、シングル・レトリートリング（単純な物品持来）（難易度 3、満点30ポイント）

種目2、サーチ・レトリートリング（探索を伴う物品持来）（難易度 3、満点30ポイント）

種目3、ストレンジャー・レスキュー（他人の救助）（難易度 5、満点50ポイント）

種目4、テーク・ア・ポート・イン・トゥー（ボートの牽引）（難易度 4、満点40ポイント）

種目5、スイム・ウィズ・ハンドラー（ハンドラーとの遊泳）（難易度 4、満点40ポイント）

種目6、コンプリヘンシブ（全体の印象）（難易度 1、満点10ポイント）

以上の6種目で競技が進められました。

オープンクラスに参加するためには、過去2年以内にS&R（スイム・アンド・レスキュー）テストに合格していなければなりません。

得点は、200ポイント満点、オープンクラスの合格点は100ポイント、160ポイント以上で、エキスパートクラスへの出場権が付与されます。

オープンクラス成績

順位	ポイント	No	ハンドラー名	愛犬名	犬種	住所
1	189	O-4	小林 晃	ピック	ラブラドル・R	新潟県
2	172	O-2	吉田 しづか	シュネー	ホワイトスイスシェパード	東京都
3	138	O-1	大石 みち子	フォンス	ゴールデン・R	静岡県
4	101	O-3	菅沼 礼子	キラ	ラブラドル・R	神奈川県

各チームは肅々と競技種目を遂行し、充実した内容を残しました。

その結果、160ポイント以上を獲得した、小林・ピックチームと吉田・シュネーチームがエキスパートクラスにも出場することになりました。

15分間の休憩の後、引き続きエキスパートクラスの競技開始です。

種目1 レイ・ダウン（グループでのフセてマテ）（難易度 2、満点20ポイント）

種目2 レトリブ・フロム・ブリッジ（桟橋からのレトリビング）（難易度 3、満点30ポイント）

種目3 ロープ・キャリング・アンド・プリング・ア・ポート（ロープの運搬とボートの牽引）
（難易度 3、満点30ポイント）

種目4 ディレクテッド・ライフライン・プリング（方向指示を伴う浮輪の運搬・牽引）
（難易度 5、満点50ポイント）

種目5 アンダーウォーターレトリビング（水底からの物品持来）（難易度 3、満点30ポイント）

種目6 ディレクション・レトリビング（方向指示を伴うレトリビング）（難易度 3、満点30ポイント）

種目7 ライフセービング・フロム・ポート（ポートからの救命）（難易度 5、満点50ポイント）

以上の7種目で競技が行われました。

オープンクラスで160ポイント以上取得していないとエキスパートクラスには参加できません。

得点は、240ポイント満点、エキスパートクラスの合格点は130ポイント、190ポイント以上で認定です。

また、2年間で130ポイント以上取得できない場合は再度オープンクラスで競技しなければなりません。

オープンクラス全チームとエキスパートクラスの2チームが終了したところでランチタイムとなり、

レストラン「フレンドリー」でおいしい昼食を摂り、休憩タイム。

午後1時から、エキスパートクラスの残りのチームが競技再開です。

エキスパートクラス成績

順位	ポイント	No	ハンドラー名	愛犬名	犬種	住所
1	205	E-5	吉田 しづか	シュネー	ホワイトスイスシェパード	東京都
2	192	E-3	前村 真由美	ベリー	ラブラドル・R	大阪府
3	164	E-4	小林 晃	ピック	ラブラドル・R	新潟県
4	158	E-2	吉田 しづか	六花	ジャーマン・シェパード	東京都
5	151	E-1	荒井 央	パール	フラットコートテッド・R	長野県

そして、全チームが終了し、15分間の休憩後に第4回水難救助犬認定（内水面・湖沼）審査会が始まりました。

この審査会は、家庭犬として育てられた犬に、水難救助技術をハンドラーとともに習得してもらい、非常時に、人命救助の一助になれば良いと考えています。

「ウォーターサーチ」や「災害救助犬」等との違いは出動要請があってから出動するのではなく、偶然目の前で溺者（本人・家族・友人・知人・他人）に遭遇した時、自己責任において判断し、救助することができれば良いと思っています。

そして、水難救助技術を習得することにより、犬および人の健康増進を図ると共に、社会に貢献することを目的としています。

まず、服従試験から開始です。

最初の科目は全員で

種目1 レイ・ダウン（グループでのフセてマテ、5分間以上）（難易度 2、満点20ポイント）

次に各チーム毎に下記科目を淡々とこなして行きます。

種目2 レトリブ・フロム・ブリッジ（桟橋からのレトリビング）（難易度 3、満点30ポイント）

種目3 アンダーウォーターレトリビング（水底からの物品持来）（難易度 2、満点20ポイント）

種目4 スイム&レスキュー（水泳と救助）（難易度 3、満点30ポイント）

100点満点中80点獲得で服従試験合格となります。

次に実技試験開始です。

はじめにライフセービング（人命救助）です。

溺者役のヘルパーを2名以上救助します。（遭難状況を想定したものです）

1級は意識不明で水面に浮いている他人の溺者を色々な手段を使って救助します。（難易度 9、満点90ポイント）

2級は友人・知人を色々な手段を使って救助します。（難易度 6、満点60ポイント）

3級は本人・家族を色々な手段を使って救助します。（難易度 3、満点30ポイント）

最後は口頭試験（難易度 1、満点10ポイント）です。

実際の遭難現場を想定した質問がされ、それに対する対処法を答えます。

実技試験1級は100点、2級は70点、3級は40点満点で、各々80パーセント以上獲得で合格となります。

水難救助犬認定（内水面・湖沼）試験合格チーム名簿

級	ハンドラー名	愛犬名	犬種	住所
1	大石 みち子	ファファ	MIX	静岡県
2	小林 晃	ピック	ラブラドル・R	新潟県

今年は3頭が挑戦し、2頭が1級と2級に合格しました。

久しぶりに1級合格チームが登場し、JWWA公認1級合格犬は、やっと2頭（チェル・ファファ）になりました。

認定試験合格者には認定証を認定犬には水難救助犬のベスト（有料頒布）に貼付する合格級のパッチを進呈しました。

表彰式後に全員で記念撮影をし、来年の大会での再会を誓い、解散となりました。

大会会長・審査員 千葉 路子

大会本部長・競技リーダー 星 博夫

JWWA専属カメラマン 平岩 信之

溺者ヘルパー 佐藤直人、宮下咲良、大石みち子、吉田しづか、濱田由美子他多くの方のみなさんの協力を頂きました。